

平成 22 年度山形県献血推進協議会議事録

1 開催日時 平成 23 年 2 月 25 日（金）13:50～15:25

2 開催場所 山形県自治会館 401 会議室

3 出席者

(1) 委員（敬称略）

有海躬行、中村妙子、太田雄一郎、渡辺敏雄、宮田知弥、五十嵐雪子、山口一郎、木村正則、會田秀男、辻原吉子、田嶋克史、川村良子、神尾芳昭、前田隆、横尾とも

以上 15 名

（欠席委員 小田隆晴、白石正、市川昭男、遠藤直幸、加藤理、桑嶋誠一、以上 6 名）

(2) 事務局 阿彦健康福祉部医療政策監、佐藤保健薬務課長、朝倉薬務衛生主幹 他

4 会議概要

(1) 開会（13:50）

(2) あいさつ（阿彦医療政策監）

日ごろ本県の血液事業の推進について、御理解と御協力を賜りお礼申し上げます。御多忙にも関わらず、本協議会の委員を引き受けていただいたことに感謝申し上げます。今年度の献血者数については、昨年度に引き続き増加しており、今年度も目標達成が可能な状況にある。一方、供給量も昨年度に比べて約 10% 増えており、ますます献血者の確保が重要となる。県としては将来にわたり安定した献血者を確保するため、市町村や赤十字血液センターと連携を一層密にしながら、血液事業の推進に努める所存である。

(3) 委員紹介

(4) 説明

事務局（山形県赤十字血液センター（以下「血液センター」という。））

山形県の血液事業の仕組みについて

スライドを用いて説明

(5) 会長選出

委員の互選により有海委員を選出

(6) 協議事項

① 報告事項

血液事業の実施状況について

事務局（保健薬務課）

資料「血液事業の実施状況について」に基づき報告

事務局（血液センター）

資料「血液事業の実施状況について」に基づき報告

②質問・意見等

○辻原委員

献血者数は平成 19 年度を最低として、ここ 2 年増加しているが、原因分析を行っているか。

採血基準の見直しとのことだが、17 歳から 69 歳と幅広くなっている。これは、どういう理由なのか。

○事務局（保健薬務課）

献血者数については、本県も全国と同じ傾向となっている。平成 19 年度に底になったことで、危機感を持って啓発の強化、バスの増車といった複数の対策が功を奏したと思っている。

○事務局（血液センター）

市町村にお願いに回る、献血協力者を献血ルームに送迎するなどの効果で増加したのではないかと考えている。

基準の見直しについては、厚生労働省薬事・食品衛生審議会血液事業部会で決定、昨年 3 月に厚生労働省令が出された。薬事・食品衛生審議会血液事業部会で献血可能と判断されたということで、幅広く献血できるようになったところである。

○會田委員

ライオンズクラブでも奉仕活動として献血活動を行っている。今年度は昨年度に引き続き「献血 1 万人運動」を達成すべく進めている。

採血基準の見直しとのことだが、高校生の献血が減っている現在にあっては、献血者の拡大が見込まれ、大変喜ばしいことである。

69 歳まで献血ができることに関して、パンフレットに書いてあるが、南ジャスコでの献血の際、年配の方から「献血をしたかったけれども、60 歳までに献血をしていなかったのでできなかった」と言われたことがあった。その条件についてパンフレット等に記載されている例があまりない。50～60 歳代が増えている傾向にあるので、PR してもらう必要がある。そのことを強くお願いしたい。

また、献血者数が増えているのは喜ばしいが、定点献血が減っているということは、懸念すべきことである。以前は 1 日 60 人台だった。一時的に受付が少なかったということだけではなく、考えられることを掘り下げてほしい。

○事務局（血液センター）

定点献血は、ハガキ等を 8,000 枚ほど送付しているが、夏の暑い時期、冬の寒い時期に減少した。

定点で一番減少しているのはジャスコ新東根店である。ヨークベニマルもあり、そちらの街頭献血に流れたのではないかと考えている。各会場 1 月はジャスコ山形南店が 13 人、山形北店が 14 人、新東根店が 17 人の減、7 月は新東根店が 30 人、山形南店が 25 人、米沢 SATY が 30 人の減となっていた。年間を通して減少が激しいのは、ジャスコ山形南店、新東根店である。特に山形南店は、買い物客が少なくなっているように感じる。

69 歳まで可能という広報に関しては、60～64 歳まで献血の経験がある方ということを広報していく。

- 會田委員
60歳ではなく、64歳か。
- 事務局（血液センター）
そうである。
- 會田委員
では、その点をパンフレット等に入れてほしい。
- 事務局（血液センター）
パンフレット等には※で小さく書いてある。皆に知ってもらうような周知をしていきたい。
- 木村委員
2月22日の山新の記事を持ってきている。ポスターも標語も大変良いと思う。地域の方が見ることができるよう、巡回したりはしないのか。全国大会は毎年あるのか。
- 事務局（保健薬務課）
ポスター等については、3月中に県庁ロビーに掲示し、ホームページにも掲載予定である。また、来年度各総合支庁ロビーに掲示し、せっかく良い作品なので、一人でも多くの方に見ていただけるようにしていく。
全国大会については、去年は島根県、今年は山形県、来年は滋賀県となっており、山形県は最後から2番目である。47回ではあるが、東京が2回行っているためである。
- 五十嵐委員
モンテディオ山形での普及啓発を行ったとのことだが、山形にはパイオニアや楽天などもあるので、色々なチャンスをつまえて、啓発していただきたい。
- 事務局（保健薬務課）
貴重な御意見をいただいたので、今後検討する。

③ 諮問事項

平成23年度山形県献血推進計画（案）について

事務局（保健薬務課）

資料「平成23年度山形県献血推進計画（案）」に基づき説明

④ 質問・意見等

- 會田委員
啓発広報活動は7月の全国大会をにらんでのこととは思いますが、例年ベースでやっていくべきではないか。日赤のテレビCMは目をひくわけだが、他に耳に残っていいと思ったのがYBCラジオのラジパンで、献血の大切さを訴えているものだった。TVのスポットは瞬間的なものであり、根源的なものは時間をかけてわかっていくものではないかと思う。4月から新しく始める予定は何かあるのか。県の事業か血液センターの事業かは判別しにくいですが、息の長い形での啓発を行うのが良いと考えているが、具体的に何かあるのか。
- 事務局（血液センター）
採血基準の改正をメインに4月から12月まで全国的に広報を行う。特集番組は今後検討していく。

ラジパンについては、輸血を受けた方からの経験を募集する為、6月から2週間に1回放送し、募集したのだが、なかなか集まらなかったため、12月に1日特集を組んでもらった。

○會田委員

ラジオでの広報を行った趣旨は何か。何かを集めるキャンペーンだったのか。

○事務局（血液センター）

年間を通して献血を周知していきたいと考えたものである。輸血を受けた方からのお礼を聞く機会はなかなかないので、良いと思った。

○會田委員

一定まで集まらなかったからやめたとのことだが、息の長い形で献血の大切さや意義を訴えていただきたい。こういったものを聞く機会がないので、是非県のバックアップ等お願いしたい。

○有海会長

テレビのCMはとてもお金がかかる。県の単位でやるのは大変だと思うが、こういった御意見も念頭において普及啓発していただきたい。

○會田委員

200mLと400mLでどのように違うのか。400mL献血を推進するとのことだが、資料の4ページの実績を見ると、200mLが8,600名ほどであり、計画の目標では6,750名と少なくなっている。400mLを増やすということで、200mLを減らしているのか。

○事務局（血液センター）

医療機関からの発注の9割が400mL由来の血液製剤であるが、山形県は400mLの割合が74%となっており、400mLだけでまかなえるほど多くないため、200mLもなくすることができない。リスク低減のため、400mL献血を推進するが、高校献血をお願いするためには、200mL献血を切ることはできない。400mL献血を特に推進していく。

各委員異議なく承認、答申文については会長一任

(4) その他

特になし

(5) 閉会 (15:25)